

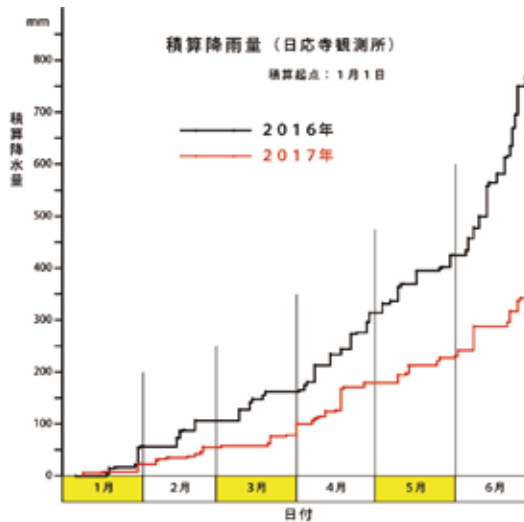
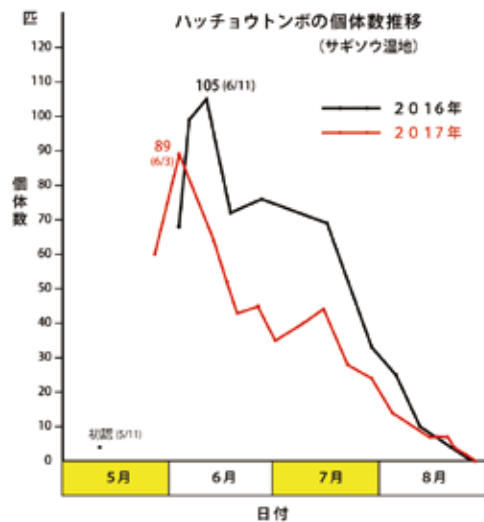
サギソウ湿地のハッチョウトンボ

体長は17～21mmで、日本で最も小さいトンボです。
 名前は名古屋付近の矢田鉄砲八丁目に生息していたことに由来します。
 ハッチョウトンボは湿地の自然環境状態を測る指標昆虫に指定されている。

棲みやすい環境づくり

	ピーク時の 推定個体数	取り組み内容など
2010年	数匹	
2011年	数匹	1月：湿地の奥に数箇所穴を掘り、水が溜まるようにした。
2012年	数匹	
2013年	10～20	3月：水の出口に土嚢を置いて、浅い水溜りを造った。
2014年	30～50	2月：溝を木材でせき止め、水が窪地に回るようにした。
2015年	50～70	
2016年	110～130	2月：溝のせき止めを麻の土嚢に変更した。
2017年	90～110	降雨量が少なく湿地が乾燥し、幼虫が成育できる面積が減少。

個体数推移と降雨量



- 主に5月中旬から6月上旬にかけて羽化する。
- 個体数のピークは6月上旬である。天敵の餌食になったり、雨や風に打たれて個体数は減少する。
- 遅れて羽化する個体があり、7月に小さな山が現れている。
- 8月下旬には、ハッチョウトンボの成虫は消滅する。

- 2017年の1月～5月の降雨量は少なく、湿地の一部は乾燥化していた。
- 幼虫は、“じめじめした”泥の中で成育している。
- 乾燥した箇所で成育していた幼虫は、死滅する。
- 個体数は、湿地の乾燥に影響される。



オス (成熟)



メス (成熟)



オス (未成熟)



メス (未成熟)



オス (羽化直後)



交尾 (約10秒)



逆立ち (暑さ対策)



産卵 (オスはホバリング)